



入学おめでとう

歯学部長 山田好秋

入学おめでとうと題していますが、あなた方学生さんはすでに夏休みを迎え、そろそろ大学生としての生活に慣れてきた頃かと思います。新潟大学のキャンパス生活はいかがですか？ サークル活動に参加していますか？ 五十嵐キャンパスは旭町キャンパスから離れているため、あなた方の日常生活を十分に把握できません。以前は教養教育が明確に設定され、2年間は専門教育から分離されていましたが、現在は入学時から旭町キャンパスで専門課程の教育を垣間見ることができるよう工夫されています。

さて、新潟大学歯学部には歯学科と口腔生命福祉学科が設置されています。いずれの学科も他の国立大学とはひと味違った教育方針を持ち、個性ある学生を育てる努力をしています。もっとも教員の努力とは裏腹に、高校までの管理された生活から解放され、少々授業をさぼっても特に注意されることもなく、好きなことが自由にできると喜んでいる学生も見受けられます。一方では特に自分の意志ではなく進路指導で振り分けられたと感じている学生は、自分の将来に不安を持ち、落ち着かない生活を送っているのではないかと思います。そこで「おめでとう」の代わりに社会環境の変化が教育の現場に及ぼす影響について説明し、将来に向けた人生設計が正しく行われるように注意を喚起したいと思います。

最近の規制緩和は教育の分野にも浸透してきました。新しい大学や学科の増設は文部科学省の厳しい審査を受ける必要があったのですが、今では「作るも自由」「つぶれるも自由」の原則が打ち出されています。ただし、歯科医師の入学定員は厳しく管理され、未だに行政のコントロール下にあります。そんな中で歯科医師の過剰が問題となり、

入学定員の削減が実施されてきました。そのため歯学科はかなりの高倍率になったはずですが。実は入学定員を抑制してもその効果が現れるのは6年後ですが、「国家試験を難しくする」という即効性のある方法もあります。その真偽はわかりませんが、少なくとも国家試験の合格率が低下してきたことは事実です。そこで皆さんに忠告です。歯科医師という職業を自分でよく確認し、その中でどのような学生生活が重要かを考えてください。前向きな学生にとっては新潟大学歯学部は在宅診療など社会の要求に応えられる歯科医師の養成を実践的に行っているすばらしい学部です。

厚生労働省は最近、介護が必要な高齢者や障害者らの相談に乗る社会福祉士の国家試験について受験資格を厳しくするなど大幅な制度改正を検討しています。これは高齢化の進展や介護保険制度の導入で需要が急増していること、さらには今年4月の新介護予防サービスの導入や障害者自立支援法の施行で、社会福祉士の役割が増していることから、質向上のため実践的な学習を増やす必要があると判断されたからです。また、高齢者を狙った住宅リフォーム詐欺などが相次ぎ、成年後見制度による後見人に社会福祉士を選任するケースが増えることも予想され、きめ細かい対応ができる専門家の必要性が高まっています。

歯科衛生士としての道を志す学生さんにとっては社会福祉士の資格は重要でないかもしれませんが、口腔生命福祉学科を設立した目的は、介護・医療の現場で、患者さんや要介護者を医療の方向からのみ近視眼的にみるのではなく、医療と福祉の両面から見ることの良い人生を送って頂くお手伝いができる、新しい人材を養成することにあります。目的を明確にし、力一杯やってみてください。



平成18年度 新潟大学歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

皆さんは全国各地から難関を突破して新潟大学歯学部歯学科・口腔生命福祉学科に入ってきました。心より祝福するとともに、将来の仲間として喜んでお迎えしたいと思います。

新潟大学医歯学総合病院歯科は歯科医療を行う地域基幹病院、研究病院に加え、臨床教育の重要な場であることは今更いうまでもありません。特に、歯学教育に関しては、全国の他大学歯学部や歯科大学のどこより充実していることを言っておきたいと思います。まずは、全国に先駆けて、入学後直ちに病院実習を行うカリキュラムを導入しました。患者付き添い実習は、5年次の後半から始まる臨床実習に向けての心構え形成や、医療の本質である「患者様の視点に立つ」という意味を実感していただく目的があります。歯科医師の視点に立つ見学実習では、医療行為に必要な知識や技量を観察し、これからの基礎歯学・臨床歯学学習にモチベーションを持っていただくことに加え、医療人としてのあるべき態度を肌で感じてほしい。さらに、自身の口腔健康チェックアップを行う患者役実習は、もちろん、自分の健康管理ができない人が他人（患者）の健康管理ができるわけがないという意図があります。

本年度より、法制化による歯科医師臨床研修制度が始まりました。歯学科の皆さんは卒業し、国家試験合格後どこかの研修施設で1年間研修を行うことが義務づけられました。大学入試と比べると、研修施設の選択は比較的希望が通りやすいかも知れません。受け入れ施設としての大学病院や一般診療所などには、大きな競争原理が働いています。新潟大学には優秀な歯科医師が全国から希

望してきますので、本学出身だからといって安心しないでください。また、出身地へ戻って大学病院などで研修したい人には、受け入れてもらえるよう一貫した努力が必要です。卒業前に実際に患者治療を行っている大学が現在ほとんどない状況で、本学は患者治療の臨床実習を5～6年次に行っています。ここでの経験が、（どこの研修施設に行っても）充実した臨床研修につながることをしっかり意識しておいてください。

口腔生命福祉学科は3回目の入学生です。口腔ケア・摂食嚥下に関する高度な専門知識を持つ保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる専門家になることが期待されています。医歯学総合病院では歯科外来の中に、歯科衛生士の主要科目である予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助の実際を行えるように、臨床実習室を兼ねた「お口の健康室」を準備し、また、口腔ケア・摂食嚥下、介護実習など経験できるように、総合リハビリセンターの摂食嚥下機能回復部にて皆さんをお待ちしています。

豊かな自然に囲まれた新潟の地で4年と6年あるいはそれ以上、歯科医療、保健福祉を勉強することになります。余所と比べて食材の豊富さ、新鮮さは群を抜いており、高いお金を使わなくとも、美味しいものをたくさん味わうことができます。仲間と大いに食べ、大いに飲み、大いに語らって歯学に留まらない幅広い教養を身につけ、魅力のある人になってください。仲間がどんどん増えて、楽しく充実した学生生活を送れるものと確信いたします。